文化発表会に向けて取り組んだ『げきあそび』の指導

－友達とのコミュニケーションスキルを目指して－

高知県立盲学校　教諭　山本　史子

１　はじめに

　本校では、令和４年度から「児童生徒の生きる力につながる学習評価の実現～主体的・対話的で深い学びに向けた学習評価の在り方を追求して～」を研究テーマとして設定している。私は、担任をしている重複学級で、令和４年度から取り組んでいた『げきあそび』を通して児童の言葉の広がりを考えた取組をしてみようと考えた。

また、令和5年度は、子どもたちの学ぶ意欲に注目するために評価基準としてルーブリック評価表を作成し活用した。

２　テーマ設定の理由

　小学生に入学した頃は、教師との関りを求めることが多かったA児とB児だったが、一緒に学校生活を送るなかでお互いに身近な友達として意識し始めた。そこで、セリフのやり取りを取り入れた活動として、国語の『げきあそび』を選択した。

令和４年度の「３びきのこぶた」の『げきあそび』では、簡単なセリフと動作で表現していた。令和５年度では、「おおきなかぶ」の絵本を選び、『げきあそび』の中に会話になるようなセリフを入れることにした。相手を呼び、応えるやり取りや、援助依頼に使う「手伝って。」それに対する返事の「いいよ。」「ありがとう。」など、短い言葉だが、相手に伝わる言葉であり、日常生活で使う大切な言葉である。同じセリフを繰り返し使うことで、友達同士の言葉のやり取りで相手に伝えることができ、声を合わせて「うんとこしょ、どっこいしょ。」と言う言葉のリズムの楽しさが味わえるのではないかと思案した。また、役を代わって遊ぶ時間を設定し、自分ではない人や動物になる楽しさを味わうこともできるのではないかと考えた。

また、この話は、協力する大切さや、１人ずつ手伝う登場人物が増えていき、最後にネズミが参加して大きなかぶが抜けるという展開を予測しながら、想像する楽しさを感じられる。友達と一緒に会話や動きの活動を通して、協力しようという思いや、友達と一緒で楽しいと感じる気持ちを育んで欲しいと考えて設定した。

３　児童の実態（令和５年度）

ここでは、A児とB児について述べていく。

2人は、弱視で知的代替の教育課程である。個別に学習する時間もあり、個々の自立活動の課題などを考慮した、国語、算数、自立活動などの学習を行っている。

Ａ児とＢ児は、簡単な言葉の意味を理解しており、あいさつや返事、簡単な発表など自分の言葉で話すことができている。友達の名前を呼んだり、困っている時や興味のある時には、近くに行って助ける動作や声掛けをしたりする姿も見られる。

令和５年度４月当初の眼疾に関する実態（個別の教育支援計画の抜粋）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| A  児 | 眼疾名 | (両眼)前眼部形成不全、遠視性乱視、弱視（強度弱視）疑い |
| 遠距離視力 | ３月　眼科：ひらがな指標（０．５） |
| 近距離視力 | 森実ドットカード：（０．１） |
| 最大視認力 | 未実施 |
| 視覚補助具 | 弱視等治療用眼鏡使用 |
| 学習用補助具 | ビッグボード、Chromebook |
| 視力以外の視覚障害 | 斜視 |
| その他の障害等 | 知的障害、てんかん症候群 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| B  児 | 眼疾患名 | 左遠視性乱視、両眼振、左外斜視、髄膜炎後 |
| 遠距離視力 | 絵指標：０．１ |
| 近距離視力 | 森実ドットカード：０．１ |
| 最大視認力 | 未実施 |
| 視覚補助具 | なし |
| 学習用補助具 | 書見台、 Chromebook |
| 視力以外の視覚障害 | 眼球振盪、斜視、視野不明 |
| その他の障害 | 知的障害、点頭てんかん |

国語の『げきあそび』に関する実態（担任団で情報共有：7月・8月）

|  |  |
| --- | --- |
| A児 | ・好きな絵本の読み聞かせでは、その後の展開を楽しみにして聞く。  ・日常的な会話で聞かれたことに答えたり、簡単な指示を聞いて行動したりすることができる。  ・友達に関心があり、関わろうとする。 |
| B児 | ・凹凸のある絵本を触って一人で感触を楽しむ。  ・短いストーリーの絵本の読み聞かせを楽しむ。  ・自分の思いを言葉で伝えることができるようになってきた。  ・友達への関心が高まり、自ら関わろうとする。 |

４　実践内容

令和４年度は、「３びきのこぶた」を題材に、『げきあそび』を展開した。ストーリーが分かりやすく、場面は左から右へ移動しながら展開できるように設定した。セリフは短く、小道具を作って動きも取り入れたことで、活動を楽しみながら取り組めていた。

　そこで、令和５年度も『げきあそび』に取り組みたいと考え、いくつか物語の候補を挙げ、児童の実態と照らし合わせながら検討した。教師同士でアイデアを出し合い、場面の転換が少なく、表現も子どもたちが覚えやすい等を踏まえ、言葉のやり取りができる台詞にこだわり「おおきなかぶ」を題材として取り上げた。

（１）単元の目標（2段階）

〔知識及び技能〕イ

（ア）「おおきなかぶ」の読み聞かせを聞いたり、言葉などを模倣したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。

（イ）遊びややり取りを通して言葉による表現に親しむことができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕　A聞くこと・話すこと　イ

簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動をすることができる。

〔学びに向かう力、人間性等〕

友達や教師の言葉を聞き、言葉などを模倣したり、『げきあそび』の好きな場面を伝えようとする。

（２）　指導と評価の計画（全６時間　本時４／６）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 次数 | 時数 | 学習内容学習活動 | 評価 | | | |
| 知 | 思 | 主 | 評価規準（方法） |
| 第1次 | １ | 「おおきなかぶ」のお話を知ろう。 | 〇 |  |  | ・「おおきなかぶ」の話を聞いて、登場人物が増えていくことが分かる。【発言・行動観察】  ・掛け合いのセリフや、みんなで一緒に言うセリフがあること知り、言葉にできている。【発言・行動観察】 |
| ２ | 自分のセリフを言ってみよう。 | 〇 |  |  |
| 第2次 | ３ | 友達といっしょにセリフを言おう。 |  | 〇 |  | ・自分でやってみたい役を選ぶことができている。【発言・行動観察】  ・セリフや動きを真似しようとすることができている。【発言・行動観察】 |
| ４ |  | 〇 |  |
| 第3次 | ５ | 歌や動きを楽しもう。 |  |  | 〇 | ・話の展開が分かり、登場人物の動きを真似ようとしている。【発言・行動観察】  ・友達と一緒に『げきあそび』の歌を歌ったり、友達との言葉のやり取りを楽しもうとしている。【発言・行動観察】 |
| 6 |  |  | 〇 |

（３）ルーブリック評価表（第2次）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 評価基準 |  | Ａ（満足） | Ｂ（おおむね満足） | Ｃ（指導の改善を要する） |
| 自分でやってみたい役を選ぶことができる。 | Ａ児 | 自ら登場人物のカードの中からやりたい役を選んで教師に伝えることができる。 | 登場人物のカードからやりたい役を選ぶことができる。 | 教師に促されてカードから選ぼうとする。 |
| Ｂ児 | 自ら登場人物のカードの中からやりたい役を選んで教師にカードを渡しながら役の名前を言うことができる。 | 登場人物のカードからやりたい役を選ぶことができる。 | 教師に促されてカードから選ぼうとする。 |
| セリフや動きを真似しようとすることができる。 | Ａ児  ・  B児 | セリフのきっかけが分かり、「うんとこしょ、どっこいしょ」と掛け声を言いながらカブを引っ張ることができる。 | 教師からセリフのきっかけを教えてもらったり、教師の真似をしたりして、役の動きができる。 | 教師に促されて、セリフを言おうとしたり、友達の近くに行こうとしたりすることができる。 |

（４） 児童の実態（9月）個別の指導計画より抜粋

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 児童 | 実態 | 年間の個人目標 | 支援の手立て |
| A児 | ・日常的な会話での簡単な指示を聞いて行動することはできる。  ・歌や絵本が好きで、歌詞を覚えて歌ったり、お話の展開が分かっていると想像して笑ったりしている。  ・学習の振り返りで、その時間に楽しかったことを思い出して「私は〇〇が楽しかったです。」と発表することができる。  ・学部の友達への関心はあり、自分からあいさつをしたり、いろんな場面で名前を呼んだりしている。近付いて、「だ～いすき。」という時もある。  ・ひらがな、カタカナ、一部の大文字のアルファベットが読める。単語や文としては、自分が知っている言い回しになることがあり、正しく読めていない時がある。 | ・簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動をすることができる。  ・遊びややり取りを通して、言葉による表現に親しむ。  （自立活動）  ・友達や教師との関わり合いを通して、決まりを守ろうとする姿が見られ、互いを思いやる優しさを態度に表すことができる。  【２－１】【３－２】  【６－1】 | ・セリフを言えるように手本を示したり、手がかりを伝え、冒頭の言葉を伝え、促したりする。  ・学習の流れを示して、見通しをもたせる。  ・動きの手本を示しながら、一緒に活動する。  ・順番に登場し、その順番で並ぶように声を掛ける。 |
| B児 | ・２年生の秋頃から身近な大人が聞いて分かる言葉が出るようになり、現在は、１～２語文で自分の思いを伝えたり、簡単な質問に答えたりすることができる。  ・絵本が好きで、図書室へ行くことを楽しみにしている。凹凸のある絵本や、手で操作できる仕掛け絵本を一人で触ったり動かしたりして楽しむ。  ・短いストーリーの絵本の読み聞かせを楽しむ。  ・友達への関心が高まっており、「一緒に行こう」と声を掛けるなど関わろうとする様子が見られる。  ・ペープサートやカードの形や色から弁別できる。 | ・身近な人との関わりの中で、日常生活でよく使う名詞や動詞など理解できる言葉、使える言葉を増やす。  ・伝えたいことを思い浮かべ、知っている言葉を使って表すことができる。  ・短いストーリーの絵本の読み聞かせを楽しむことができる。  （自立活動）  ・友達がすることを見たり、友達に声を掛けたりして友達と関わる楽しさを味わう。【３－１】【６－１】 | ・セリフの手本を示したり、言葉が違う時は、正しい発音を聞かせたりしながら違いに気付かせる。  ・絵カードなど選択肢を示しながら、自分で選択したものから言葉で表現できるように支援する。  ・絵本の読み聞かせや『げきあそび』を繰り返し、見通しをもたせる。  ・友達との会話や一緒に動く動作の場面を作り、関わりをもたせる。 |

（５）学習の展開

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | | 学習活動 | 指導上の留意点  自立活動の視点と●視覚支援 | 評価規準・評価方法 |
| 導  入  ５  分 | 見通し | １．あいさつをする。  ２．今日の学習の流れを確認する。 | ・今日の日直に号令を掛けるように声を掛ける。  ●コントラストがはっきりしたパワーポイントで学習の流れを示す。 |  |
| 展    開    30  分 | 解　決　活　動 | ３．「おおきなかぶ」の読み聞かせを見る。  登場人物を確認する。  どの役をしたいか、カードを選ぶ。  ４．『げきあそび』をする。  自分のなりたい役になって『げきあそび』をする。 | 【２－１】Ａ児  【３－１】Ｂ児  読み聞かせの中に歌を取り入れ、楽しい雰囲気づくりを行う。  ●輪郭が分かりやすいペープサートを使いながら、誰が出てきたか確認できるようにする。  ●ペープサートから選べるようにする。  ●自分の役が分かるように、首にカードを掛ける。  【３－２】Ａ児  【６－１】Ａ児、Ｂ児  特に、順番に出てくる場面や、繰り返しの言葉の所を中心に取り組むようにする。  『げきあそび』を繰り返し、他の役にも挑戦できるようにする。 | 自分でやってみたい役を選ぶことができている。  【発言・行動観察】  セリフや動きを真似しようとすることができている。  【発言・行動観察】 |
| 終  末　10分 | 振り返り | ５.感想を発表する。  ６.あいさつをする。 | ●コントラストがはっきりしたパワーポイントで今日の学習した流れを示す。  どの役をしたか、どんな言葉が面白かったかなど、児童から引き出す。  今日の日直に号令をかけるように声を掛ける。 |  |

（６）準備物

パワーポイント（PC）、モニター、おおきなかぶ（バランスボール）、ペープサート、役カード、音源、土（段ボールの畑）、録画機器、役の小道具

※台本の抜粋

ナレーター　　　おばあさんは、まごをよんできました。

おばあさん　　　「まごさーん！」

まご　　　　　　「はーい！」

おばあさん　　　「てつだって。」

まご　　　　　　「いいよ。」

おばあさん　　　「ありがとう。」

５　成果と課題

（１）成果

具体的な子どもの姿をイメージしながらルーブリック評価表を作成し、個々の子どものねらいを絞ることができた。ねらいを絞ったことで、どの段階まで取り組めていたか明確になり、児童の成長を教師間で確認し共有できた。また、今後の子どもへの指導支援の見直しをすることができ、子どもに分かりやすい教材の工夫をすることができた。

『げきあそび』は、それぞれ自分から話しかける、話しかけられて応えるというやり取りが成立するように、日常的な会話を『げきあそび』のセリフに取り入れた。重複学級であるため、自立活動の課題はそれぞれの学習の中心課題にもなる。教材の工夫や指導方法など、授業改善につながった。例えば、セリフ、音、かぶの大きさ、カードなど、試して改善していくことで、児童が主体的にやってみたい、楽しいと興味関心をもって取り組める活動に広がっていった。個別に取り組む学習や、休み時間などに、「おおきなかぶ」の絵本を読んでほしいと言ってきたり、好きな場面のセリフを言って、一緒に言葉のやり取りを教師としたりするようになった。時には畑での活動や、友達と物の貸し借りをする時など、『げきあそび』で使うセリフを場面場面で使うように仕掛けていくと、スムーズな会話になったり、みんなで声を合わせてセリフを言うことができたりした。こうした友達や教師など人との関りや、学級・学部・学校など、集団の中で経験することからの学びは大きいと感じる。

（２）課題

ルーブリック評価表については、作成するためにある程度時間が必要で、全ての授業では作成できていない。また、授業をする前にルーブリックの評価項目を設定するので、授業後に改善する必要があれば児童の実態に合わせたルーブリック評価へ改善していけたらよかった。グループ指導の場合は、授業に関わる教師全員が児童全員のルーブリック評価表を頭に入れておく必要があり、児童に分かるように、めあてとして示したり、振り返りの中で活用したりすることが不十分だった。

コミュニケーションスキルの習得に向けて、言葉のキャッチボールをしてほしいと思い考えたセリフは、覚えてくると子ども同士の会話になっていたり、1人で全部暗記してセリフを言ってしまったりするほど夢中になっていた。お互いの言葉を交わすために、日常のあいさつや学習での会話のやり取りの指導も大切にしていきたい。

『げきあそび』を終えて、担任の振り返りで様々な意見が出た。友達同士の関心が見られるようになったため設定したものだが妥当な内容だったか、役を選ぶ時の提示の仕方や選ぶ順番が妥当だったか、役割を交代する『げきあそび』から自分の役を決めて取り組む学習発表会に向けた取組で、児童は自分の役として捉えて学習活動を行えたか、学習環境は良かったかなど、多くの課題が出された。

動作は、実際の野菜の収穫で玉ねぎなどを引っ張って抜こうとするが、『げきあそび』で使うために作ったかぶでは引く感じがなくなっているなど、演じる難しさも感じた。ただ、本人たちは、『げきあそび』の発展として、盲学校の文化発表会で、大勢の方に見てもらい、たくさん拍手喝さいを受け、うれしさや楽しさは十分感じられた。

（３）終わりに

令和６年度の『げきあそび』は、担任団で「ももたろう」を題材とし、５年度同様にどの絵本をベースにするか、見やすい絵、読みやすい文字数などを検討し、言葉を丁寧に言うセリフを加えた。

文化発表会に向けては、ナレーションも児童の活躍の場面とし、録音をして聞かす場面と、自分たちがセリフを言いながら演じる場面の設定をすることにした。

まだまだ課題は多い発表ではあったが、４年度から比べると、物語や会話が自分のものとして身に付き始めているなど、成長した姿を見ることができた。これからも自立活動の課題をベースに、個々の力を伸ばしつつ、教師が児童の目指す姿を共有することで、子どもの育ちにつながるのではないかと考える。

参考文献

おおきなかぶ　ロシアの昔話　福音館書店

Ａ・トルストイ 再話　内田 莉莎子 訳　佐藤 忠良 画

特別支援学校学習指導要領　各教科等編（小学部・中学部）

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）

文部科学省　自立活動の内容（6 区分 27 項目）

参考資料　　　自立活動の内容６区分２７項目

１ 健康の保持

（1） 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。

（2） 病気の状態の理解と生活管理に関すること。

（3） 身体各部の状態の理解と養護に関すること。

（4） 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。

（5） 健康状態の維持・改善に関すること。

２ 心理的な安定

（1） 情緒の安定に関すること。

（2） 状況の理解と変化への対応に関すること。

（3） 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。

３ 人間関係の形成

（1） 他者とのかかわりの基礎に関すること。

（2） 他者の意図や感情の理解に関すること。

（3） 自己の理解と行動の調整に関すること。

（4） 集団への参加の基礎に関すること。

４ 環境の把握

（1） 保有する感覚の活用に関すること。

（2） 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。

（3） 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。

（4） 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること。

（5） 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。

５ 身体の動き

（1） 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。

（2） 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること。

（3） 日常生活に必要な基本動作に関すること。

（4） 身体の移動能力に関すること。

（5） 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。

６ コミュニケーション

（1） コミュニケーションの基礎的能力に関すること。

（2） 言語の受容と表出に関すること。

（3） 言語の形成と活用に関すること。

（4） コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。

（5） 状況に応じたコミュニケーションに関すること。

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）

より抜粋